

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号
特許第5226874号
(P5226874)

(45) 発行日 平成25年7月3日 (2013.7.3)

(24) 登録日 平成25年3月22日 (2013.3.22)

(51) Int.Cl.

F I

A 4 5 C 11/12 (2006.01)

A 4 5 C 11/16 (2006.01)

A 4 7 F 7/02 (2006.01)

A 4 5 C 11/12

A 4 5 C 11/16

A 4 7 F 7/02

B

請求項の数 11 (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願2011-530456 (P2011-530456)	(73) 特許権者	511087408
(86) (22) 出願日	平成21年9月29日 (2009.9.29)		スワッチ・エス アー
(65) 公表番号	特表2012-509091 (P2012-509091A)		スイス国・2500・ビエンヌ・4・リュ
(43) 公表日	平成24年4月19日 (2012.4.19)		ヤコブ・シュタンブフリ・94
(86) 国際出願番号	PCT/EP2009/062644	(74) 代理人	100064621
(87) 国際公開番号	W02010/040667		弁理士 山川 政樹
(87) 国際公開日	平成22年4月15日 (2010.4.15)	(74) 代理人	100098394
審査請求日	平成23年5月26日 (2011.5.26)		弁理士 山川 茂樹
(31) 優先権主張番号	1597/08	(72) 発明者	ビーダーマン, レモ
(32) 優先日	平成20年10月6日 (2008.10.6)		スイス国・シイエイチー2572・ズツ・
(33) 優先権主張国	スイス (CH)		アレーンシュトラーセ・11
		(72) 発明者	オルネラス, ホアオ
			ポルトガル国・ピーー2410-273・
			レイラ・ルア サ ド ミランダ・17-
			4・イーエスキュー
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 時計のプレゼンテーション用ケース

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

支持体（5）に固定された物品を固定位置で受けるケースにおいて、該ケースが基部を形成する下部（3）と、カバーを形成する上部（2）とを含み、前記下部（3）及び前記上部（2）が互いに協働して閉鎖位置において閉鎖スペースを定め、前記支持体（5）には、前記物品が前記基板上にも載らず前記カバーにも当接しないようにする保持手段（6）が含まれているケース（1）であって、

前記ケース（1）の閉鎖位置において、前記下部と前記上部との間の結合部にて前記ケースの基部（3）と前記カバー（2）との間に少なくとも2つの間隙（4）が存在し、前記支持体（5）が前記保持手段（6）を介して前記間隙（4）内に置かれる、ことを特徴とするケース。

【請求項 2】

前記保持手段（6）が少なくとも2つの肩部（6）により形成される、ことを特徴とする請求項1に記載のケース。

【請求項 3】

前記ケースが透明又は半透明材料で形成される、ことを特徴とする請求項1または2に記載のケース。

【請求項 4】

前記支持体（5）が該支持体の横方向運動を制限するリブ（7）を含む、ことを特徴とする請求項1から請求項3までの何れかに記載のケース。

【請求項 5】

前記支持体（5）のリブ（7）が側縁部（10）により延長される、
ことを特徴とする請求項 4 に記載のケース。

【請求項 6】

前記支持体（5）の縁部（10）が、少なくとも 1 つの浮き彫りパターンを含む、
ことを特徴とする請求項 5 に記載のケース。

【請求項 7】

奥行き効果を実現するために、前記支持体（5）のパターンと協働するように配置された少なくとも 1 つの浮き彫りパターンを含む、
ことを特徴とする請求項 6 に記載のケース。

10

【請求項 8】

前記支持体（5）が C 字形である、
ことを特徴とする請求項 1 から請求項 7 までの何れかに記載のケース。

【請求項 9】

前記 C 字形の支持体（5）の端部が少なくとも部分的に可撓性である、
ことを特徴とする請求項 8 に記載のケース。

【請求項 10】

前記下部（3）と前記上部（2）とが互いにヒンジ留めされる、
ことを特徴とする請求項 1 から請求項 9 までの何れかに記載のケース。

【請求項 11】

前記下部（3）及び前記上部（2）が、前記ケース（1）を閉鎖位置にロックするロック手段（9）を含む、
ことを特徴とする請求項 1 から請求項 10 までの何れかに記載のケース。

20

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、支持体に固定された物品を固定位置で受けるケースないし容器に関する。このケースは、基部を形成する下部と、カバーを形成する上部とを含む。下部と上部は互いに協働して、ケースが閉鎖位置にあるときに閉鎖スペースを定める。

【背景技術】

30

【0002】

時計のプレゼンテーション・ケースないし容器は従来技術から周知である。これらのケースは、基部及びカバーを備え、一般に支持体を包含する平行六面体ボックスの形態をとる。支持体は、一般にケースの底部に配置され、物品が当該ケース内に配置されたときに物品を固定位置に保持するのに用いられる。

【0003】

高級市場層の範囲の時計モデルでは、ケースの内側は皮革又はアルカンターラである。この場合、支持体は、ケース及びひいては時計を覆う材料と同じ材料で覆われたクッションの形態をとり、この上に時計が取り付けられる。低価格市場層のモデルに属する時計については、支持体は発泡体又はプラスチック部品の形態をとる。後者の事例において、支持体は、ケースの底部の上に載せられる又は固定されるアーチ形状である。

40

【0004】

しかしながら、時計のような物品の支持体上での位置は幾つかの問題を提起する。実際に、時計は、手首に取り付けられているかのように支持体上に配置される。従って、支持体がケース内に配置されると、支持体—時計組立体は一般に、時計のバンド又はブレスレット上に載ることになる。支持体—時計組立体がブレスレット上に押し付けられることにより、このブレスレットが損傷を受ける可能性がある。

【0005】

更に、支持体は、一般に、ケース内に配置されると自由に動けないような大きさにされる。このことは、一般に、支持体の幅をケースの内側幅と同じサイズにすることにより実

50

現される。これにより、支持体がケース内に閉じ込められ、どのような動きも不可能になり、ケースが受ける可能性があるあらゆる衝撃に対して耐久性があるようにする。その結果として、この配置は、支持体に固定された物品に対し良好な保護をもたらす。

【0006】

しかしながら、この配置は、ケースが受けるあらゆる衝撃から物品を保護するが、支持体をケースの底部上に位置決めすることにより、時計を保持するのがより困難になる。従って、支持体に固定された物品を把持することによって、支持体をケースに挿入し又はケースから取り出すことが通常であり、このことが物品に損傷を与え又は損なうリスクを伴う。

【発明の概要】

10

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

本発明の目的は、ケース内に配置しなければならない物品を簡単な方法でケースに挿入し取り出すことができる一方で、依然として衝撃からも保護できるケースを提案することによって、従来技術の前述の欠点を克服することである。

【課題を解決するための手段】

【0008】

従って、本発明は、物品が底部の上に載らず、カバーにも当接しないように配置された保持手段を支持体を含むことを特徴とする、前述のケースに関する。

【0009】

20

従って、このケースの1つの利点は、物品をケース内に配置するのがより容易になることである。実際、物品が固定される支持体は、ケースの底部内には存在しない。これにより、ケースのユーザは、物品を支持体に固定し、該支持体をケース内に置くこと又は支持体をそこから取り出すことを極めて容易にすることができる。

【0010】

このことはまた、ケースと支持体とを互いに固定し、これによって支持体が衝撃の影響で移動するのを防ぐことができることを意味する。その結果、支持体に固定された物品が外部衝撃から保護される。

【0011】

このケースの有利な実施形態は、従属する請求項2から請求項12の主題を形成する。

30

【0012】

本発明の特に有利な態様によれば、ケースは透明材料で形成され、物品をケースの外から見ることを可能にする。ケースの透明性はまた、支持体をケースと関連付けて、有利な視覚効果を実現できることを意味する。

【0013】

本発明によるケースの目的、利点及び特徴は、純粹に非限定的な実施例として与えられ、添付図面により例示される本発明の少なくとも1つの実施形態の以下の詳細な説明を読むとより明らかになるであろう。

【図面の簡単な説明】

【0014】

40

【図1】本発明による閉鎖位置にあるケースの概略図である。

【図2】本発明による部分的に開いたケースの概略図である。

【図3】支持体の概略斜視図である。

【図4】支持体の輪郭図である。

【図5】支持体の正面図である。

【発明を実施するための形態】

【0015】

以下の説明では、時計のプレゼンテーション・ケースを実施例として用いている。しかしながら、このプレゼンテーション・ケースは、プレスレット、イヤリング、指輪又は他の物品に用いることができるので、この実施例は非限定的な例示として用いられる。

50

【0016】

図1及び図2は、本発明によるプレゼンテーション・ケースを示す。このプレゼンテーション・ケースは、ケース又はボックス1の形態をとる。ケース1は、基部を形成する下部3、及びカバーを形成する上部2の2つの部品で形成される。これら2つの部品2、3は互いに協働して、ケースが閉鎖位置にあるときに閉鎖スペースを形成する。図1に示すように、2つの部品2、3は、ケース1は、上部2を下部3に対して後方に倒すことにより開くことができるように、ヒンジによって互いに接続されている。勿論、上部2及び下部3の2つを互いに接続させずに、単に一方を他方の上部に嵌めることも可能である。ケース1の正面図は、該ケースを長手方向軸に沿って見ることを意味し、他方、ケース1の輪郭図は、ケースを横方向軸に沿って見ることを意味する点は明らかであろう。

10

【0017】

更に、図1に示すケースは、ケースを閉鎖位置にロックするためのロック手段9を含む。これらのロック手段9は、スナップ嵌め手段又はあらゆる他の公知の手段とすることができる。勿論、これらのロック手段を省いてもよいことは明らかである。

【0018】

図2に示されるように、支持体5はケース1内に収容される。この支持体5は、プレゼンテーション・ケース内に配置することが望まれる時計を固定するのに用いられる。支持体-時計組立をケース1内に配置しやすくするために、本発明は、この支持体-時計組立をケース1の縁部によって支持し、物品がケース1の底部の上に載らず、カバーに接触もしないようにすることを提案している。

20

【0019】

第1に、ケース1は、上部2が下部3上に閉鎖されたときに、ケース1の何れかの側部で下部3と上部2との間に間隙4が現れるように作られる。図示の実施例ではこの間隙4は直線的であるが、他の形状も想定できる。間隙は、ケース1の対向する2つの側部に位置するのが好ましい。ケース1はまた、1つの側部当たり1よりも多い間隙4を含むことができ、この場合、間隙はスリット形状をとる。勿論、間隙は異なる平面内にあることも可能であり、この場合、上部2及び下部3はこれに応じて形成される。

【0020】

第2に、図3から図5に示す支持体5は、ケース1の縁部11上に載ることができるように改変される。より具体的には、支持体5は、間隙4の上に載せられるように改変される。このようにするために、支持体は保持手段6を有する。これらの保持手段は肩部の形態をとる。肩部6は、支持体5の側部を越えて突出する。この配置は、肩部6が、間隙4においてケースの縁部11上に載ることを可能にする。ケース1が閉鎖位置にあると、肩部6は支持体5の動きを制限する。肩部の寸法は、少なくとも間隙4の寸法に等しい。支持体5が間隙4内でできるだけ良好に保持されるように、肩部6は、間隙4と同じ寸法を有することが好ましい。ケース1がスロット4の形態で間隙を有する変形形態では、支持体5は、スロット4の数と等しい数の肩部6を備える。

30

【0021】

図1から図5に示される好ましい実施形態においては、ケース1は、2つの間隙4を含み、これらは直線状ではない。実際に、図1から図5で見られるように、上部3は支持体5を保持する付加的な手段を提供するよう配置される。これらの付加的な保持手段は、下部3と上部2との間の結合部にある。従って、支持体5の保持手段は、ケース1の対向する2つの側部上に作られた突出部8から構成され、これは、円弧状の2つの部分が直線部分で互いに接続されて形成された側面形態をとる。これらの突出部8は、肩部6において支持体5と協働する。このようにするために、肩部6は、突出部8に対して相補的な形状に作られ、該肩部6がこの突出部8上に完全に当接することができるようにされる。これにより、支持体5に対する長手方向支持がもたらされる。上部2は、勿論、支持体5が内部に配置されたときに下部3及び上部2が互いに協働してケース1を閉じることができるような窪みが付けられる。このようにするために、上部2は、各対向する側部が下部3の突出部8に対して相補的な形状の窪みを有するように作られる。この場合、これらの窪み

40

50

の寸法は、間隙 4 を形成するように適合される。

【0022】

本実施形態の変形形態において、支持体 5 には、該支持体 5 を長手方向及び横方向の両方で支持する横保持手段 7 が設けられる。このようにするために、支持体 5 の各側部上で肩部 6 においてリブ 7 が配置され、これらのリブ 7 間の距離 L_m は、最大でもケース 1 の壁間の距離と等しい。従って、支持体 5 は横方向に移動することができない。

【0023】

本実施形態の別の変形形態において、図 3、図 4 及び図 5 に見られるように、リブ 7 は、支持体 5 の側縁部 10 として機能するように延びる。この場合、これらの側縁部 10 はまた、案内手段としても機能する。実際に、側縁部 10 は、最大でもケースの内側幅と等しい距離で隔てられる。従って、リブが縁部として機能するように延長された場合、縁部 10 が最初にケース 1 内に挿入されることで、支持体 5 の案内が容易になり、従って、支持体 5 は確実に適切に配置される。

10

【0024】

下部 3 及び上部 2 は透明材料で作ることもできる。この透明性により、ユーザはケース 1 を開けることなく、ケース 1 内の製品を見ることが可能になる。この透明な外観は、審美的目的で用いることができる。実際に、この透明な外観の用途の 1 つは、3 次元ディスプレイである。例えば、この高価を達成するために、支持体 5 の縁部 10 が用いられ、この透明な外観に関連付けられる。このようにするために、ケースの縁部 11 と支持体の縁部 10 とを同じパターンでエッチングし、支持体がケース 1 内に位置付けられたときに、パターンが重なり合うようにする。ケース 1 上の透明なエッチングを支持体 5 上のエッチングと重ね合わせることにより、ケース 1 の審美的外観を向上させる奥行き効果がもたらされる。

20

【0025】

本発明の 1 つの変形形態は、支持体 5 をより実用的にすることに関する。従って、支持体 5 には、湾曲中心がわずかに平坦な C 字形形状が与えられる。この形状は、時計のケースを平坦な部分上に配置することができる一方で、端部は、ブレスレットが手首とほとんど同一の湾曲輪郭をとることができるので、時計と共に用いた場合に極めて実用的である。

【0026】

支持体の別の可能な変形形態によれば、支持体 5 の端部は可撓性である。この可撓性は、時計が支持体に固定されたときに時計のブレスレットが受ける応力がより小さいことを意味する。

30

【0027】

添付の特許請求の範囲により定義される本発明の範囲から逸脱することなく、当業者には明らかな種々の改変及び／又は改良及び／又は組み合わせが、上述の本発明の種々の実施形態に対して可能であることは明らかであろう。

【0028】

実際に、支持体 5 は、宝飾品類が置かれるトレイの形状をとることができる点は明らかである。支持体 5 はまた、時計のケースが台形の頂部に載るように台形状にすることができる。

40

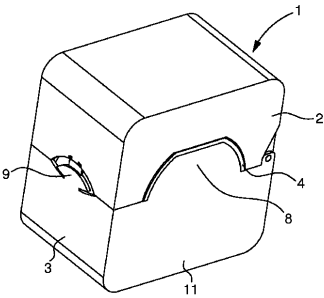
【符号の説明】

【0029】

1…ケース、2…上部、3…下部、4…間隙、5…支持体、6…保持手段（肩部）、8…突出部、9…ロック手段、10…支持体の縁部、11…ケースの縁部。

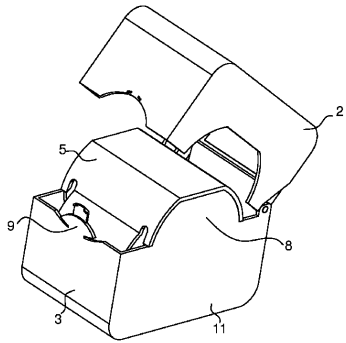
【図 1】

Fig. 1



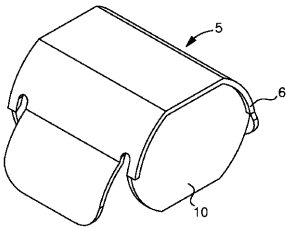
【図 2】

Fig. 2



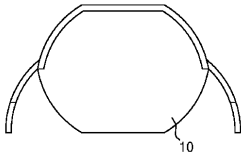
【図 3】

Fig. 3



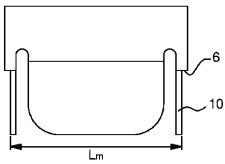
【図 4】

Fig. 4



【図 5】

Fig. 5



フロントページの続き

審査官 高島 壮基

- (56)参考文献 実開昭62-116953 (JP, U)
米国特許第02219212 (US, A)
実開昭51-155671 (JP, U)
実開昭61-105017 (JP, U)
特開2005-315804 (JP, A)
実開昭49-038258 (JP, U)
実開昭57-042623 (JP, U)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
- | | |
|------|-------|
| A44C | 17/02 |
| A45C | 11/10 |
| | 11/12 |
| | 11/16 |
| A47F | 7/02 |
| | 7/03 |